

第2学年 道德学習指導案

は組 男子17名 女子17名 計34名

指導者 益満 陽平

1 主 題 名 いっしょにあそぼう

2-(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、身近な人とのふれあいの中で、温かい心で接し、親切にすることで、楽しい生活を送ることにつながることを理解し、親切にしようと努力してきている。しかし、自己中心的な考えや興味本位などから、相手のことを十分に考えずに行動してしまい、親切な行動につながらないこともある。このようなことから、この期の子どもたちに、相手の気持ちや相手が今どんなことを求めているのかを何かを考えて行動しようとするのが、他者と友好な関係を築き、互いに明るい生活を送ることにつながることを理解させ、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にしていこうとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、自分が相手のことを考えて、親切にしたと思っても、相手が快い感情を抱いていない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と重ね合わせて類推しなら追究する活動を通して、相手の気持ちやしてほしいことは何かを考えて行動しようとするのが、互いに気持ちが通じ合って楽しい生活につながることを理解し、自分の身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にしていこうとする生き方は、身近な集団の生活が楽しく、気持ちよく過ごすことにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

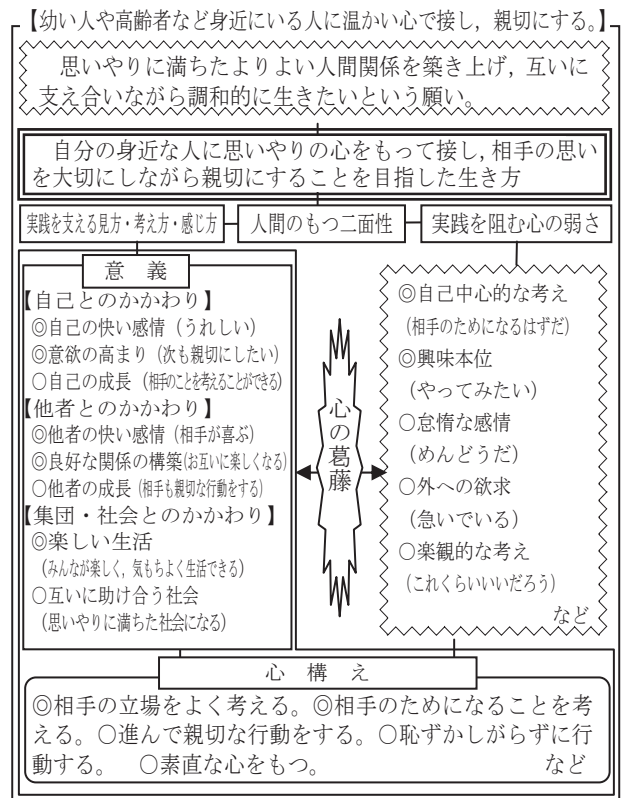
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、相手のことを思いやり、進んで親切にしていこうとする生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることとは、相手の気持ちや求めていることをよく考えたりしながら、自分の生活における身近な人々に温かい心のこもった行いを進んですること、そのことによってお互いが気持ちよくなることだととらえることができる。

ここでは、思いやりに満ちたよりよい人間関係を築き上げ、互いに支え合いながら調和的に生きたいという願いを基に、自分の身近な人に思いやりの心をもって接し、相手の思いを大切にしながら親切にしていくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。



◎は重点的な学習内容

具体的には、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にしていこうとすることで、自他共に快い感情になり、良好な人間関係を築くことにつながることで、さらには、みんなが気持ちよく明るい生活を送ることができることなどの意義を理解させる。それらの実現に必要な心構えとして、相手の気持ちをよく考える、何が相手のためになるのかを考える、自分から進んで親切な行動をしようとする気持ち等が大切であることも理解させる。さらには、意義や心構えの理解を深めるために、身近な人を思いやり、進んで親切にしていこうと思いつつも、自己中心的な考えや興味本位などの心の弱さから、なかなか実践できないことがあることにも気付かせる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「公園のおにごっこ」(学研教育みらい)を取り上げることとした。この資料は次のような粗筋である。

友だちと公園で遊んでいた主人公が、足のけがのため、まだ思うように走ることができない幼稚園児のゆうたとおにごっこをすることになった。ゆうたを気遣って遊んでみたものの、ゆうたは全く楽しそうではない。次は、何気なく普段通りにおにごっこをしたところ、思いの外、ゆうたが楽しそうに遊び、主人公たちと共に楽しく夢中で遊び続け、楽しい時間を過ごすという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために、資料の一読から、普段するようにゆうたとおにごっこをしてしまったことが、楽しくゆうたと遊ぶことにつながった場面で、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることにかかわることがなぜ大切か、どのようなよさがあるか(意義・心構え)を多面的に追究させる。その際、自分の生活の中の経験における心情と重ね合わせながら、ゆうたが、快・不快に感じた主人公の2つの行為の背景にある心情を比較し、重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究できるような対話活動を行う。さらには、自分の考えていきたい問題についてのまとめていく中で、学習を通して変わったり、確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にしていこうことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることにかかわる経験やその時の心情、実践を支える見方・考え方・感じ方(意義・心構え)等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 親切にできた経験(総反応39)とその時の感情(総反応数34)

経 験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
電車やバスで、お年寄りや小さい子を連れて人に、席を譲ったり、先に乗車させたりした。	15	相手の気持ちを考えた	18
けがをしたり困ったりしている友達へ声をかけた	12	自分から親切にしたい	10
友だちに順番を譲ったり、落し物を拾って渡したりした	8	相手やみんなが喜んでくれるといいな	4
1年生への学校案内	4	親切が返ってくるといいな	2

[表2] 親切にできなかった時の心情(総反応34)

心 情	反応数(人)	心 情	反応数(人)
他のへの欲求(急いでいた)	13	不安(上手くできなかったらどうしよう)	2
楽観的な考え(これくらいいいだろう)	7	(できなかったことがない)	7
羞恥心(恥ずかしい)	5		

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方(意義)についての認識 総反応数55)

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対自己		対他者		対集団・社会	
うれしい・楽しい気持ちになる	10	うれしい・楽しい気持ちになる	12	楽しい気持ちで生活できる	7
褒められたり認めてもらえたりする。	5	お互いの関係がよくなる	5	自分から親切な行動がしなくなる	6
親切な行動ができるようになる	2	自分から親切な行動がしなくなる	3	安心して生活できる	3
自分にも親切が返ってくる	2				

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識 総反応数（41）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
相手の気持ちを考える	16	相手のためになることを考える	5	自分がされたことを返したい	5
自分から進んで行動する	8	恥ずかしがらない	5	感謝の気持ちをもつ	2

[表1]の「相手の気持ちを考えた」「自分から親切にしたい」等の感情が多いことから、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることのよさを理解し、行動した経験が多いことが考えられる。その反面、[表2]から「急いでいた」「これくらいでいいだろう」といった感情から、親切な行動をとることができないことも気づいているものの、自分の生活の中で、親切にできなかった経験を想起できなかったり、親切な行為まで至らず、自己中心的な考えに基づいた行動があることには、気づいていなかったりすることがわかる。また、[表3]から、「自分だけでなく、相手や集団全体が楽しい気持ちで生活することにつながる」「互いの関係が良くなる」という意義を感じている子どもが多いことがわかる。しかし、[表4]から「相手のためになることを考える」といった相手が快い感情になるためには、どんな行為がよいのかを考えることの大切さを感じている子は少ない。

これらの実態から、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることとは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。さらに、子どもたちが捉えている自分だけでなく、「相手や集団全体が楽しい気持ちで生活することにつながる」「互いの関係がよくなる」というよさは、自分の生活の中では、具体的にどのようなことかを意識しながら追究させるようにする必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、互いの考えを比較し、関係付けながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、より切実感のある問題意識をもたせ、それを追究する中で、多様な見方・考え方・感じ方に触れさせていく。そして、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、理由は何かな等を明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることの生き方はなぜ大切にされているか、どんなよさがあるのかを主体的に追究することを通して実感を深め、これまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、身近な人に親切にした経験と自分の親切な行動がよい結果を生まなかった際の心情とを対比させ、その疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために、主人公の親切な行動が相手の快・不快の感情につながった場面に焦点化し、追究させる。その際、道徳的価値に対する見方・感じ方・考え方を多様に表出させるために、役割演技を設定し、対話活動を行う。そして、**主人公のそれぞれの行為を支えた心情を比較したり、そのこととゆうたが楽しく一緒に遊ぶことができた要因となる気持ちや考えである「相手の立場を考えること」「相手のためになることを考えること」「親切な行動は、自分も相手も気持ちよくなること」といった見方等と関係付けさせたりしていく。**

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これから生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際は、資料中の主人公の考えや話し合い中の友だちの考えなど、自分の見方・考え方・感じ方が広がったり、深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活の場面で生かせそうかを視点に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることにかかわる自分自身の生き方を見つめ、だれに対しても進んで親切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で、自らの生活場面での内面と重ね合わせて類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることについて、「自分や相手が楽しく生活することすることにつながる」、「親切にするためには、相手のためになることを考えて行動しようとする」といった気持ちや考えを自分の生き方のかかわりを通して理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

親切は、相手の気持ちやしてほしいことを考えることが大切であり、そのことによってお互いが楽しい気持ちになることができることを実感させるために、役割演技を通して、主人公の行動と、年下の子と楽しく遊べたことの背景にある相手の気持ちや考えとを関係付けて追究させる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 	(分) 7	○ 切実な問題意識をもたせるために、親切な行動をした時とその後、相手がよい感情をもたなかった時の心情を発表させ、それらの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2 資料「公園のおにごっこ」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、追究していきたい場面を選択する。 (2) 主人公の親切な行動につながった気持ちや考えとそのよさについて話し合う。 【ゆうたと一緒に遊んだ時の心情】 【ゆうたが楽しなかった時】 ・せっかく、ゆっくり逃げてあげたのに。 ・タッチしたらかわいそうだ。 【心の弱さ】 ・遊んであげている。 ・かわいそうだから。 どんなことをしたら、相手のためになるかを考えて行動すると親切につながるんだ。そして、自分も相手もうれしくなる。 【ゆうたが楽しんだ時】 ・ぼくも楽しいな。 ・一緒に遊ぶっていいな。 ・また遊びたいな。 かわいそうと思って接しても、相手はうれしくないし、本当にしてほしいことではなかったんだ。 【心構え】 ・相手の気持ちを考える。 ・相手をためになることを考える。	14	○ 資料を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために、資料を一読する前に、幼い子がいっしょに遊びたがっている場面を提示し、「みんなだったらどうするか。」と問う。 ○ 主人公の気持ちを自らの体験場面で重ね合わせて類推させるために、共感できる主人公の気持ちから、親切な行動によって、相手が喜んでくれた時やそうでない時の心情について想起させる。 ⑨「楽しそうに遊んでいる子どもたちは、どんなことを話しているかな。」
見つける	【意 義】 自分も相手もうれしい気持ちになる→また親切しようとする→お互いの関係が深まる→みんなが気持ちよく生活できる など (3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えを比べ、感じたことや考えたことを発表し合う。 相手は、どんなことをしてほしいか考えられるといいな。	14	○ 道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせるために、主人公とゆうたが、楽しくおにごっこをして遊んでいる場面でのお互いの心情や心情の変化について、役割演技を行いながら追究させる。 ⑩「どうして今、楽しいのかな。」
深める	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 	8	○ 身近な人に温かい心をこめて、進んで親切にすることの大切さやよさを追究させるために、ゆうたと楽しく遊べたことから明確になった「相手の気持ちを考える」「相手のためになることを考える」などの考えと、それによって、自分も相手もうれしい気持ちになることを関係付けて考えさせる。
見通す	4 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切することにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○ 学んだことを通して、自分なりの考えをまとめさせる際には、「親切は、相手の気持ちを考える」「相手のためになることを考える」「親切は、お互いが楽しい気持ちになる。」といった今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考えや、生活の中で生かせそうな場面を考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。 ○ 子どもたちの課題が連続・発展し、実践化が図られるようにするために、親切な行動が生活の中でつながっている写真を見せながら、説話を行う。